

大瀬地区人権まつり

内子町

1 大瀬地区人権まつり

大瀬地区は、愛媛県喜多郡内子町にあり、旧小田町（現内子町）との町境にある山間の自然豊かな集落である。平成6（1994）年にノーベル文学賞を授章した大江健三郎の故郷としても有名な地区である。大瀬地区では、昭和62（1987）年から「大瀬地区人権まつり」を毎年12月に開催しており、平成26（2014）年度で28回目を数える。

人権まつりは大瀬地区内の小・中学校、PTA、公民館、自治センター等の主催で行われており、内子町内の関係各機関等の参加もあり、全体での情報交換や連携を強める良い機会となっている。また、近隣の自治体からの参加者もあり、大瀬地区の人権文化を他地域に発信する場ともなっている。

2 人権まつりと佐川敬先生

「大瀬地区人権まつり」を立ち上げられたのは、昭和62年に大瀬中学校の校長として赴任された佐川敬先生であった。佐川先生は人権・同和教育の推進に情熱を傾けられ、退職後も県内各地で講演活動を精力的に行われた。佐川先生の思いは28回目を数える「大瀬地区人権まつり」の中で連綿と受け継がれている。

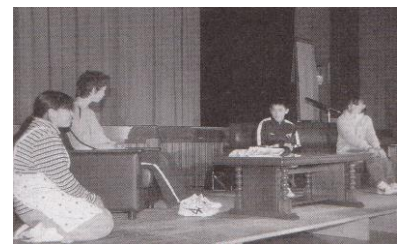
3 大瀬地区人権まつりの実施内容

年により若干相違があるが、おおよそ次のような内容で実施している。

・公開授業 ・人権標語発表 ・私の主張発表 ・高校生による発表

・人権劇の発表 ・大瀬地区人権まつりの歌「明日（あした）へ」「ふるさと」合唱

地区内の小・中学校の公開授業の後、全体会で小・中の児童生徒及び一般の方が人権標語と主張を発表している。高校生による発表は、内子高等学校と小田高等学校が交替で担当し、両校の人権委員会の取組紹介や研究発表等を行っており、高校生の活動を多くの方に知っていただく貴重な機会である。人権まつりのメインとなっているのが、大瀬中学校生徒による人権劇である。毎年生徒が主題を決め、数ヶ月かけて練習に励んで発表する劇は、主題を深く掘り下げたものとなっており、毎年参観者の好評を得ている。人権まつりの歌「明日（あした）へ」は、平成18（2006）年度に大瀬中学校の生徒の詩をもとに作曲され、以後毎年合唱が行われている。



人権劇の様子

「大瀬地区人権まつり」は、子どもから大人までが人権について考え、学び合う場となっており、地域独自の人権文化の創造と確立に大きな役割を果たしている。

[参考資料]

大瀬自治センター『大瀬地区人権まつり記念文集』